

教員名	藤江康彦 (FUJIE Yasuhiko)
所属	子ども発達教育研究センター
学位	博士 (教育学)
職名	助教授
URL/E-mail	http://www.kodomo.ocha.ac.jp/fujie@kodomo.ocha.ac.jp

◆研究キーワード

教室談話 / 教育実践 / 学習支援

◆主要業績

総数 (11) 件

- ・藤江康彦「第4章教室談話の特徴」、秋田喜代美編著『授業研究と談話分析』、放送大学教育振興会、Pp.51-71.
- ・藤江康彦「第12章 授業における学習評価のあり方と方法」、秋田喜代美編著『授業研究と談話分析』、放送大学教育振興会、Pp. 162 -186.

◆研究内容

小学校から中学校への移行期における、子どもの理数系教科の学習の様相を明らかにする短期縦断研究を行った。対象は首都圏の小5～中2（小学校8校、中学校3校、計約1800名）。研究は、①小中学校での授業観察に基づく**教室談話の生成過程の分析**と②質問紙調査に基づく**理数科系教科の学習動機を高める要因の検討**からなる。①では移行期における子どもの授業参加の様相や教師の指導上の工夫が明らかになるとともに教師への面接からは、小中間での学週間や学習者間の相違や移行期における学習指導上の工夫が明らかになった。②では、算数・数学と理科とは学習動機のあり方が異なり、個別に検討することの必要性が示唆された。また、子どもの学習意識や行動の傾向である学習力は算数・数学との相関が強いが理科との相関が弱いことが明らかになった。

このほかに、文部科学省の研究開発指定を受けた本学附属学校園における校種間連携の研究に従事した。

◆教育内容

学部においては、教職科目「生活科指導論」を担当した。夏季休業中の集中講義であったが、多数の参加者があり、幼児期から小学校低学年に書けての発達特性について講義するとともに、生活科の実践事例の紹介、学生間での生活表現の交流をねらいとしたワークショップ型の活動を行った。また、コア科目として「環境教育論」を附属中学校佐々木和枝副校長とともに担当した。附属中学校での授業実践に向けて、受講者各自がテーマを設定し教材開発を行う過程をコーディネートした。

大学院においては、社会臨床論コースを担当した。「授業臨床論演習」では、附属小学校1年生の観察を行い、授業記録、文字化、分析、考察といった授業研究の一連の流れを実習した。「教育実践心理学演習」では、アクション・リサーチ、コンサルテーションに関する文献を講読し、心理学の立場からの教育実践への関与のあり方について議論した。「学習開発論演習」では、心理学における社会文化的アプローチや活動理論に関連する文献の講読を行った。このほか、修士論文の指導補助、論文審査を務めた。

◆Research Pursuits

We engaged to a short-term longitudinal studies of transition from elementary school to junior high school in mathematics and science class about following topics: 1) relation between classroom discourse and children's cognitive development, 2) relation between children's motivation for a subject matter and learning behavior and attitude.

◆Educational Pursuits

Undergraduate Courses

The Theory and Practice of Life Environment Studies
Environmental Education Studies

Graduate Courses

Graduate Division of Human Development and Social Science

Seminar in Clinical Studies on Teaching and Classroom
Seminar Psychology of Educational Practice
Seminar in Learning and Curriculum Development

◆共同研究例

- ・小学生・中学生における教科に関する認知発達マップに関する研究（ベネッセコーポレーション）
- ・小学生、中学生における自己学習力形成要因の検討（ベネッセコーポレーション）

◆将来の研究計画・研究の展望

今後は、1)理数教科授業における教室談話生成と変容の過程と認知発達との関連、2)小学校から中学校への移行に伴う活動システムの変容が、児童・生徒の理数教科の学習や認知発達に与える影響、を授業観察と質問紙調査により微視的、短期縦断的に明らかにする。教育システム間の移行に伴う児童・生徒の自然科学領域の認知発達の様相を明らかにするとともに、理数科離れの要因の一つと考えられる環境移行に伴う不適應の解消や理数教科学習への動機づけを高める学習環境のデザイン原理の開発に資するだろう。

◆共同研究可能テーマ・今後実用化したいテーマ

- ・組織における個人と集団との相互の関係性形成に向けたコンサルテーションシステムの開発
- ・学校改革を通じた教師の資質向上を可視化するツールの開発

◆受験生等へのメッセージ

幼小連携や小中連携、学力向上などの取り組みに対する支援をおこなっています。フィールドにおいては実際に取り組んでおられる先生方と協働しながら、大学では、教育実践上に関心をもつ学部生や院生のみなさんと議論しながらすすめていきたいと考えています。